

公表する社会的課題

課題1 「2050年脱炭素社会の実現」に向けた取組



課題

2050年までの脱炭素社会の実現に向け、
脱炭素型ライフスタイルへ県民一人ひとりの行動変容を促したい

Before

After

脱炭素？



「かながわ脱炭素ビジョン2050」を
公表したが、もっと多くの
人に知っていただきたい。



県民一人ひとりが
脱炭素型ライフスタイルに向けて
一歩踏み出す社会を実現！

いただきたい提案の例



家にいる時間を脱炭素化！

(例)衣類を不必要に買わず長く着たり、
リサイクルすることを促す取組 等



移動する時間を脱炭素化！

(例)車での移動をやめて電車や自転車
等を活用することを促す仕組み 等



外での時間を脱炭素化！

(例)ワーケーションを活用した観光や
自動運転の普及を促す取組 等

※あくまで一例のため、これに限らず幅広い提案をお待ちしています。

課題2 スマート農業技術の開発と普及



課題

県内の多くを占める小規模農業経営者は、農業担い手の減少及び高齢化に
悩んでおり、省力化や高品質化等を通じた生産性の向上が求められる

Before

After



既存技術は導入コストが高く、経営規
模も合わないため、導入できるような
技術が少ない



低コストのICT等の開発や
既存技術の工夫した導入で、
小規模農業でも生産性向上を実現！

いただきたい提案の例

小規模農業向けの低コストICT等の開発や既存のシステム等を農業分野へ転用



収穫などの重作業のサポート

(例)福祉分野で活用しているパ
ワーアシストスーツを農業分野で
転用 等



生産をサポートする技術

(例)ロボットによる収穫作業や
ドローンを活用した畑の見える化
等



AI等を活用した効率的な管理

(例)過去のデータ等に基づき効率
的な管理が出来るシステム 等

※あくまで一例のため、これに限らず幅広い提案をお待ちしています。

課題3 子ども食堂への支援体制の確立



課題

公的支援が届きにくい「見えない困窮」が広がり、子どもたちが安心できる居場所として子ども食堂の必要性が高まっている。
一方で、**寄付物資を保管する場所や必要な場所へ必要な分だけ届ける手段が不足している。**




県は子ども食堂の情報発信や協力金、セミナー開催等をしているが、より踏み込んだ取り組みが必要

子ども食堂が必要とする物資を寄付によって集め、保管及び届ける仕組みを構築することで、**持続可能な地域社会**を目指す

いただきたい提案の例

子ども食堂を継続して運営し続けることが出来る仕組みまたは個別手段

-  空スペースの活用
 -  配送手段
 -  余剰食材等の提供
 -  寄付食材と施設のマッチング
- ・ 配送トラックの戻り便や店舗・倉庫の空スペースの提供、寄付受入れ物品の物流システムの確立
 - ・ 中間支援団体と企業のマッチングシステムの構築 等

※あくまで一例のため、これに限らず幅広い提案をお待ちしています。

課題4 日常における移動の不自由の解消



課題

山間部・都市部を問わず、**日常生活における移動に不自由を感じる人が増えている。**
一部地域では住民ボランティアが移動を支援をして支えているが、**持続可能性**の面で課題がある。






交通空白地域の居住者や免許を返納した高齢者にとっては、日々の買い物も負担！

外出機会を増やし、健康づくりや社会参加を促すことで、**地域の暮らしを生き生きと！**

いただきたい提案の例

移動支援をしているボランティアへのサポートなど、地域における移動を持続可能にする仕組み

-  運営負担の軽減
 -  ドライバーの確保
 -  車両の確保
- ・ ルート作成・配車等が可能なアプリの開発
 - ・ 地域と連携した移動支援システムの構築 等

※あくまで一例のため、これに限らず幅広い提案をお待ちしています。